

編集後記

『全国看図アプローチ研究会研究誌』も20号を公刊できることになりました。多くの先生方のお力を借りて、ここまでたどり着くことができました。看図アプローチの発展にお力添えいただいている皆様に、心よりお礼申し上げます。

記念の20号に論文をいただいた執筆者、石田ゆき・田中岬・伊藤公紀は、「看図アプローチ」が発展してくる過程で多大な貢献をしてくれた方たちです。また、石田・田中・伊藤は3人とも北海道教育大学岩見沢校での私(鹿内)の教え子です。教え子たちに支えられて立派な20号が完成したことを、私は誇りに思っています。

第1論文の石田ゆきは「全国看図アプローチ研究会」専属アートスタッフです。石田が制作してくれるビジュアルテキストなしには看図アプローチの発展はありませんでした。また、石田はすぐれた「授業者」でもあります。石田は、自らが担当するすべての授業に看図アプローチを取り入れています。看図アプローチ理論を熟知して組み立てている石田の授業は、これまで多くの学生さんたちを魅了してきました。石田は、豊富な授業実践をもとに、これまでたくさんの「看図アプローチ授業モデル」を提供してくれています。今号でも、石田自身が制作したビジュアルテキストを活用した授業モデルをまとめてくれました。今回はオンライン授業のモデルですが、石田の授業モデルには汎用性があります。石田論文からは、看図アプローチ授業づくりのヒントをたくさん得られると思います。

第2論文の田中岬は、様々なシチュエーションに看図アプローチを活用できる柔軟性をもっています。田中が行う看図アプローチ授業はどれも独創的です。田中の授業では、看図アプローチによって子どもたちが豊かな心を育んでいけるような工夫が随所でなされています。今回は「協同学習促進ツールである『きゅうちゃん』で特別支援学級と通常学級をつなぐ」という優れたアイデアを大澤晴江と石田ゆきの協力を得て授業化してくれました。子どもたちの様子がよく伝わってくる実践報告になっています。また田中は、本研究誌でたくさんの実践報告論文を発表しています。これらの論文も併せてお読みください。田中の授業者としての力量と看図アプローチの可能性を実感していただけたと思います。

第3論文の伊藤公紀は、私たちのもうひとつのテーマ「看図作文」の研究にも大きな貢献をしてくれています。今号掲載の論文も「看図作文」に関するものです。伊藤は教育情報工学を専門にしています。今号掲載論文では、教育情報工学の観点も取り入れた有益な分析をしてくれています。

伊藤は、「看図作文」研究が「看図アプローチ」研究に発展していく節目のところでも大きな役割を果たしてくれました。この節目は、今から17～8年前までさかのぼります。2006年のことです。私たちの研究会に参加し始めて間もない石田ゆきが重機の作業場面をとらえた一連の写真を自発的に撮影してくれました。それらの写真を見た鹿内は「これは、看図作文の研究を次のステージに乗せていくための重要な教材になる」と直感しました。そして鹿内は、石田が撮ってきた一連の写真の読み解きをファシリテートする発問系列もすぐに組み立てました。これらの教材の有効性を確認するためには実際に授業をしてみる必要があります。授業をしてみるフィールドを探していたところ、伊藤が所属大学で担当している「入門演習」という授業が候補に挙がってきました。伊藤が作成していたシラバスと石田と鹿内が構成した教材が適合していたのです。そこで早速、「入門演習」のひとコマを借りて鹿内が「看図アプローチ」を活用した授業を試してみました。授業の様子と成果は次の論文としてまとめてあります。

鹿内信善・伊藤公紀・石田ゆき他(2007)「ヴィジュアル・リテラシーの授業開発(Ⅰ)
—『入門演習』授業への活用—」札幌大学総合論叢 第24号 pp.19-39

この論文には、現在の看図アプローチ理論の原型となるものがしっかりと書き込まれています。この

論文を契機として、私たちが続けてきた「看図作文」の研究が「看図アプローチ」の研究へと大きく飛躍したのです。

教え子たちに支えられて、看図アプローチは実践を生み出す力のある「授業理論」として発展してきました。現在では、全国各地の先生方の力もお借りして、多くの実践と研究がなされるようになっています。先生方のお力添えをいただいて、看図アプローチの可能性をもっともっと拓いていく覚悟でおります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

追 伸

『全国看図アプローチ研究会研究誌』には、きちんとデザインされた「表紙」がついています。表紙の製作は石田ゆきが担当しています。20号の表紙も、多様なメッセージが読み取れるビジュアルテキストになっています。

今、私たちが住んでいる北海道は厳しい寒さの中にあります。そんな自然の中でも、たくさんの動物たちがたくましく生きています。20号では「厳冬期のエゾリス」が表紙を飾っています。撮影はもちろん、石田ゆきです。寒風と雪の中で辛抱強くシャッターチャンスを待っていたからこそ撮影できたエゾリスの姿です。表紙もご鑑賞いただければ幸いです。

文責 鹿内信善

全国看図アプローチ研究会研究誌 20号

発行年月日 2024年1月26日

編 集 「全国看図アプローチ研究会研究誌」編集委員

石田 ゆき

伊藤 公紀

織田 千賀子

鹿内 信善*

山下 雅佳実

渡辺 聡

(*印は編集代表)

発 行 全国看図アプローチ研究会



kanzu-approach.com

事務局長・編集長・DTP・表紙デザイン 石田ゆき